

ピースクラブ通信

No.34

発行 社会福祉法人 ピースクラブ
住所 〒556-0014 大阪市浪速区大国1丁目11-1
連絡先 TEL 06-6647-2077
Eメール peaceclub@s2.dion.ne.jp

みやこじま じゆうたくじつげん
宮古島エコ住宅実現にむけて

大西洋子

何かを作るといふ時、割にいつもなかなか決まらなかつたり、途中で一度計画の大変更があつたりするのですが、宮古島のエコ住宅もやつと建設に向けて一歩踏み出しました。

遅れたり、変更したり全て意味があるようです。設計者の西銘さんと森本秀治さんの知恵と工夫の結晶で太陽光発電はもちろんだ熱

の利用、水の循環、自然を生かした素晴らしい建物になりそうです。次は、建設業者の選定。末永く宮古でつながり一緒に宮古のエコを共有してくれるような業者の人だとうれし

いなあ。西銘さん曰く「岡田さんの健康素材を練りこんだコンクリートの屋根、これで太陽光発電による電磁波がカットされる。壁面にすべて健康素材を混ぜた漆喰が敷き詰められているのです。おまけに隣の小さな森は、昔からの井戸でマリア様（教会で賛美歌を皆で歌った時）の波動だ。」そう

宮古島のこの家に滞在すれば、それだけで元気になる、そんな家になるそうです。そして、これと並行して、宮古島で40年農業をしてビニールハウスでおいしい野菜を完全無農薬で作っているとまりさんが路地に4月5月に草を植えて、それを刈り込んで発酵させ、それを肥やしに野菜を作る。ミネラルたっぷりの土でおいし

い野菜がびっくりするくらい取れてしかも手がかからない、お金がかからない、そして宮古島を浄化していくという知恵の結晶が建設中には始まります。この記念すべき大プロジェクトを見せて頂いて、食べさせて頂く。

なんとこの幸せ。福島の原発事故で何と聞いていいのかわからないくらい絶望していますが、福島の友達も来てもらって癒しの役にたきたいです。



帰郷

生野区ケアホーム「めぐり」勤務

持立 香

昨年十一月半ば過ぎ、放射能汚染地域に住居を持つ者を対象とした、いわゆる一時帰宅で、私は母に同行し、かれこれ一年半ぶりに帰省した。そう、私の実家は、かの爆発で一躍有名になった福島第一原子力発電所1、4号基立地の犬熊町にある。原発災害から一月余り経て、町は警戒区域に指定され、区域内への出入りは法的に規制された。その少し前から、私の育った田舎町はメディアに登場するようになり、見覚えのある風景を、テレビやパソコンの画面を

通して見る度、逆にそれはほとんど遠ざかって行くような思いにとらわれていた。そんな中での一時期、さぞや郷愁に駆られ、感極まるのではと思っただが、実際に現地を訪れると、感傷は消え失せ、そこにはリアルな原発被災地があった。

道路を覆わんばかりに生い茂った背高あわ立ち草、手入れをされず草原と化した田畑、外壁が崩れたり、倒壊したりした家屋、放れ牛や野犬に注意の看板、今は数字でしか見えない放射線量…。震災から半年以上経ても、復興に向かうどころか、ますます「非居住地化」して行くこれらの様相は、原発災害特有のリアルかもしれない。しかしそれ以上に私が感じたのは、目に見えない部分で、この異常な状況が、原発被災者の意識の中で、生活に、日常になりつつある現実（リアル）だった。

警戒区域立ち入りの中継地点となつている体育館では、受付に始まり、防護服、線量計その他立ち入りに必要な装備の配布、説明などの業務が、電力会社職員や、地元役場の職員らの手で、そつなく（この場合非常に変な言い方だが）行われ、当の被災者たちも、当たり前のように防護服をまとい、線量計を首に下げ、おのこの自宅に向かって行った。

もちろんここで怒り出したり、泣き出したとしても仕方ないのであるし、圧倒的な喪失感や、不条理に対する困惑、怒りといった言葉や思いがあったとしても、人は眼前にある具体的な事を着実にこなして、生きていかなければならないといった、困難に耐えつた際の真実みたいなものが、被災者の胸の内にはあるのかもしれない。ただ、誤解されては困るのだが、私は被災者が事故を受け止め、逞しく眼前の困難に立ち向かっていくなど、述べている訳ではないという事だ。

防護服をまとい、線量計を首にかけ、限られた時間、故郷に、自宅に戻って行くなど、どう解釈しても異常な事態である。また、渦中の人々が、黙っているからといって、彼らから発信しないからといって、マスメディアを含め、被災地外の人々が関心を示さない状況を、おおいに危惧すべきだと私は思うし、事故から一年足らずで、関心が薄れて行く様に怒りすら覚える。そしてとりもなお



2、3年前に引き続き、またまたピースを離れます。という原稿を書く事になりました

フランスへ

さず、その怒りは、原稿のある町で育った自分自身にも向けられている。
震災から十カ月、原稿周辺の警戒区域で七万七千人余り、それに準ずる避難区域を含む。

つくりくるとお思いの方も多しとは重々承知しております。前回の原稿は助産師になるため学校へ行くのでピースを少し離れますという内容でしたが、その学校をめたくくくびになり路頭

た。私事ながらこの度フランスへ嫁ぐ事となりました。マサイ族に嫁ぐと言われたほうが

松瀬佐智子

めると十万人余りが故郷を離れ、生活の基盤を失い、子供達は健康を脅かされている。誰も償えないような（あるいは償わない）人為的災害を、私達は直視しなければならぬ。

美しい国です。あの見渡す限りの砂浜や大きな岩、広い森やすぐそこを駆け抜けるウサギやキツネ、歴史を感じさせる街並み……あげればきりがありませんが、ぜひみんなにその目で見て欲しいです。

スという国は（80%を原発に頼る原発推進国ではあります）……）なにせ広大で

松瀬佐智子

に迷ったところに、白馬に乗った王子様が現れました。（イヒビ）
次は王子様からくびを言い渡されましたという原稿を書く事にならないよう精進致します。でももしそうならたらみんな山ほど酒に付き合つてね。



▲ご結婚おめでとう。お幸せに！

みんなにはフランスに別荘が出来たと思つてちよくちよく遊びに来て欲しいのです。前に宮古島の朝子さんが言っていたように、ピースは私には実家であり、みんなは家族のような大切な存在になっています。いつもみんながいつでも。

だいま。と帰ってこれるそんな城を私達も築くことが出来るようになります。なりたいたと感じています。
ではちよっくらいつてきます！
みんなにフランスで会えるのを楽しみにしています。



● ピースクラブ写真館 ●
しゃしんかん
もちつき大会の風景

これからのスケジュール

- 3月10日(土) 15時～
スイッチ会議
- 3月11日(日) 11時～
「原発事故が奪ったもの」
長谷川健一さん
中之島公会堂大ホールにて
- 3月18日(日)
水の学習会 豊橋市
- 3月25日(日) 12時～17時
大団円! いも煮交流会 扇町公園
- 3月28日(水)
ピース日帰り慰安旅行(全員参加)
場所未定

へんしゅうこうき
編集後記

佐伯利也

へんしゅうこうき
遅まきながら、今年
の一号目にあたり挨拶
いたします。今回の紙
面にありますように、
松瀬さんの結婚を初め
として、八木さんの第
2子誕生等ピースクラ
フでは今年も様々な事
が起こっています。さ
らに制度上では今まで
の授産ピースが3月で
なくなり、4月から多
機能型ピースが新たに
始まります。通信では
ピースの様々な動きを
いとおもっています。